『國民新報』1939年5月21日

期待さるるお約束[[1]](#footnote-1)

の南總督の東上は朝鮮及び朝鮮人に關し大いなるをもつてゐたのだつた。支那事變このかた朝鮮人がしたをきあたりに上達し、首相以下關係要路と今後のの新方針に就いて重要なをするのが南總督の意中であつたことが、種々のによつて明らかになつた。

東電の報ずるところに依れば朝鮮をば從來の觀念を一し『き日本』として、朝鮮人をば、内地人とにでなく『純日本人』としてふと云ふことが、そののように思はれる。そしてこの精神のとして、三十年以内に朝鮮人に大陸との義務とを實施すると云ふのである。この文を草する時には南總督は東京を出發、歸任の途中であるが、此文が讀者に讀まれる頃には、或は總督は京城に歸られ、の如き或種の意思をされるかもしれない。そのでないと、今度中央當局と朝鮮總督とのに、取りめられた新しい朝鮮統治方針の内容をたしかめるすべもないが、もし新聞に報ぜられたことが事実であるとすれば、それはまことに重大なる一であり、朝鮮に關する限り一をする國家的と云ふべきであらう、もともとや、内鮮一體と云ふことばの中に、かかるがまれてゐたとは云へ、それが一の期限を付してされると云ふことは、新しい意味をずるものと云はざるを得ない。

南總督より新方針の眞相を聴くまでは、かれこれがましいことを云ふことはへよう。今や朝鮮及朝鮮人に對しては重大なる意思表示をなさんとしてゐる、と云ふ事だけを吾々はに置いて、つつましやかにを教育し、明日をしよう。

1. 『同胞に寄す』では「お約束」が「約束」になっている。 [↑](#footnote-ref-1)